三笠ニュース

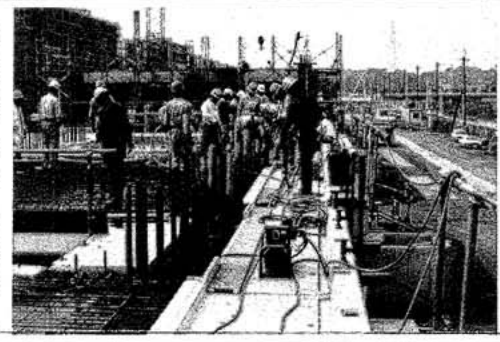
発行所
東京都 千代田区猿楽町1-4-3
三笠産業株式会社
電話 東京(292)1411 大代表
テレックス 222～4607
郵便番号 101
PR旬報　年4回発行

高周波バイブレーター 簡潔な構造 故障知らずで いよいよ好調

永い歴史を持つ三笠バイブレーターのなかで、最も息の長いのが標準型バイブレーターではなかろうか。シンプルな機構と使い易さのマッチした製品は、さすがに永い年月に亘り改良が加えられ、造り慣れた安定した性能をみせる。

振動発生機構から分類すると、いま話題の高周波バイブレーターも、その発する源は標準型バイブレーターと同じところにあるとも言える。原点に立ち帰って高周波バイブレーターを眺めてみると、これから先はますます安全性、使い易さ、仕上りの良さ等の目標を満たす高周波バイブレーターが主役になってくると思われる。

MVI-PL型 一本槍 高周波棒バイブレーター



手前がFC＝3型コンバーター、40型と一本槍高周波棒バイブレーターを使っている

三笠で造られている内部用バイブレーターは多数の種類がありますが、振動発生機構としては、棒状の振動筒内部に半円形断面を持つ偏心振子を高速回転させるもの（標準型系列）と、振動筒先端内部で、真円断面を持った軸を内接転がり運動させて振動を発生させる方式（錐振型系列）とがある。

両方式とも一〇、〇〇〇サイクル前後の振動を発生させる。標準型では偏心振子そのものを、要求される振動数と同速で回転させる。モーターを原動機とする場合は、主として整流子モーターを使って高速回転する駆動軸から直接に動力を取り出している。一方、錐振型に於いては、内接転がり運動をする振子軸そのものは三〇〇〇乃至三六〇〇回転程度の回転数なので、二極のインダクションモーターを原動機として使っている。

これらの二つの型式のバイブレーターのコンクリート締固め性能を比べてみると、モーターを使って一定の電圧で、スランプも同一条件（この場合は2㎝）、振動筒直径45㎜のバイブレーターを使って試験した結果は、どちらも差は認められなかった。しかしながら、整流子モーターを原動機とする標準型は、電圧ならびに負荷の変化による回転数の変動が大きく、電源からコードを長く延ばして使う現場では電圧の低下は免れず、低スランプの硬練りコンクリートが使われる土木の現場等では、振動筒に加わる負荷も大きく、著しく回転数が低下し、実際の作業では力が弱いとされて、もっぱら錐振型が活躍していました。

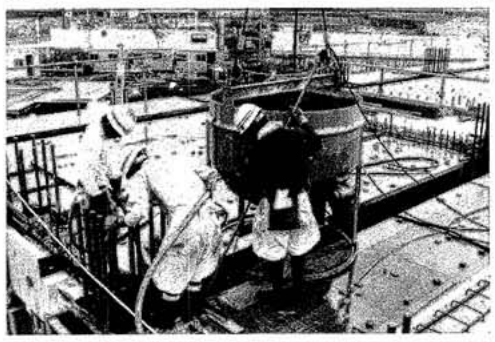
強力な振動を発生する錐振型も、振子軸が内接転がり運動をする振動筒先端の内部に、油、水、錆、その他の異物が入ると、振子軸が空転して振動しなくなります。

従って標準型に比べて機構が複雑になり、組立てもむずかしくなります。

構造が簡単で故障の少ない標準型の振動発生機構を改良し、より高速回転に耐え、負荷の変動にも安定した性能を発揮し、使い易く、安全性を重視した新型バイブレーターが昭和38年に三笠産業で開発されたのです。勿論、国内に於いては初めてのことです。

高周波モーターと偏心振子を直結し一つの振動筒のなかに入れたモーターインヘッドバイブレータ（愛称インヘッダー）が登場したのです。

安全性、軽くて使い易い、これらの利点に加えて、作業者の高齢化に伴い重いバイブレーターは敬遠されだして来ました。更には、高い振動を出



（一本槍高周波棒バイブレーターを使って、柱にコンクリートを充塡）

す高周波バイブレーターの大きい加速度がコンクリートに有効に働き、仕上りの良いことが認められて、高周波バイブレーターがここ二～三年普及に拍車が掛かり、最早、高周波バイブレーターは特殊な場所で使うのだと言うイメージはなくなって来ているのは事実であります。

海外に於いては西ドイツを中心に、欧州では高周波バイブレーターが主力になりつつあり、アメリカおよびカナダでは標準型からの発展型式とでも言う、シャフトと振動筒を分離していろいろ組合わすことのできる分断式が多いようですが、高周波バイブレーターも徐々に浸透しつつあります。

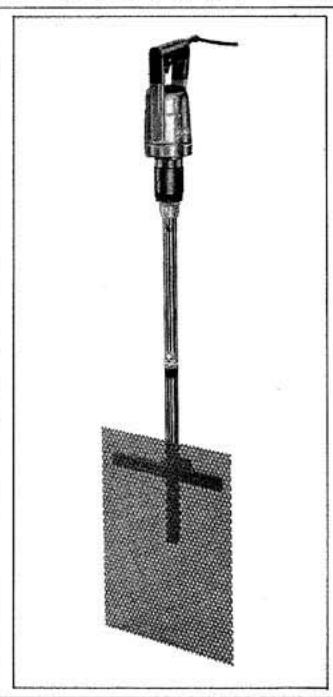
東南アジアと中近東では、錐振型が主で、標準型を併用しているのが現状です。

このように見ると簡潔な構造の振動発生機構のバイブレーターが、更に改良を加えられて今後の主体となると思われます。

現在、三笠産業では、緻密に配筋されている場所に使う細い径の30型をはじめとし、40、50、60、70型に至るまでの各サイズの高周波バイブレーターの他、作業現場のニーズに適応するよう短いゴムホースのライトインヘッダーやハンドインヘッダー、深いところや手の届きずらい場所に使う「一本槍」高周波棒バイブレーター等、細いものから太いものまで各種類バラエティに富んだ高周波バイブレーターが揃っております。

これらを回す高周波電源もモーター式に加え、電源の無いところでも使えるエンジン式の移動電源も用意され、音の静かな防音型の高周波エンジンゼネレーター等、三笠のコンクリートバイブレーターは日本国内は勿論のこと世界の各地で今日も活躍しています。

素晴らしい仕上りと評判 MVI＝DS型 電直法面仕上機



砂防ダムの工事現場で見かける骨の折れる仕事。それは擁壁など、法面のコンクリート打ちをした後で、メタルフォームの内側に沿って、スコップのような柄の付いた鉄板でコンクリートの打設面をこすって、気泡を取り除ききれいに仕上げる作業である。なしろメタルフォームとコンクリートはピッタリと密着していて少しの隙間もない。そこへ鉄板を無理やり差込むのだから入れるときにも力が要るし、引抜くのも楽ではない。

このことを伝え聞いた三笠の地方課では、早速に技術研究所に依頼して、ロング電直28型に手を加え、バイブレーションを利用した手持ちの法面仕上機を試作した。

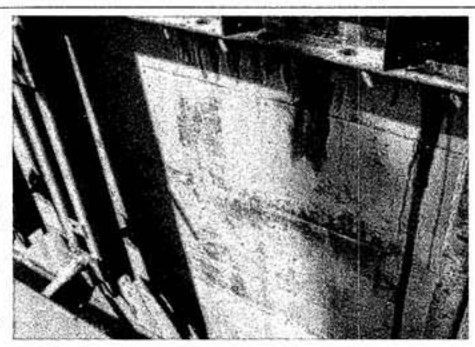
これを持って出掛けたところは長野県北安曇郡白馬村、スキーで有名な八方尾根の山裾にある守谷商会・姫川建設JVによる砂防ダム工事の現場。三笠ニュース第74号でその作業ぶりのさわりだけは紹介ずみである。コンクリート打ちした法面の表面に浮き出た気泡をとるために、平らな鉄板をメタルフォームに沿って、差し込んでは引抜く作業のことを、現場を訪ねたときにスターチングと聞いて来たのだが、どうやらこれは聞き違いのようである。

ともあれ、バイブレーションの効果は大きく、振動筒の先端附近に取付けられたパンチングブレード（網板）に振動を与えてやると、メタルフォームに沿ってスムーズに入ってゆく。まさに片手でもラクラクこなせる有様で、これは便利と言うことになる。引抜くときは、最初だけ振動をかけてコンクリートに喰付いている網板を引離せば、その後は振動を止めて、コンクリートの表面を網板でこすり

（電直法面仕上機を使って、早速に仕事をしてみる）

付けるようにして引抜いてやると、きれいな仕上りとなる。

尚、ここの現場では一たん電直法面仕上機をかけた後を、再度従来の方法での手作業による仕上げをやっている。このときには既に法面仕上機でメタルフォームとコンクリートとの面に道がついているので、鉄板も楽に入り一段ときれいに仕上る。メタルフォームを取りはずした擁壁の表面は写真に見る通りの見事な仕上りである。



（メタルフォームを取ってみると、きれいに仕上っている。）

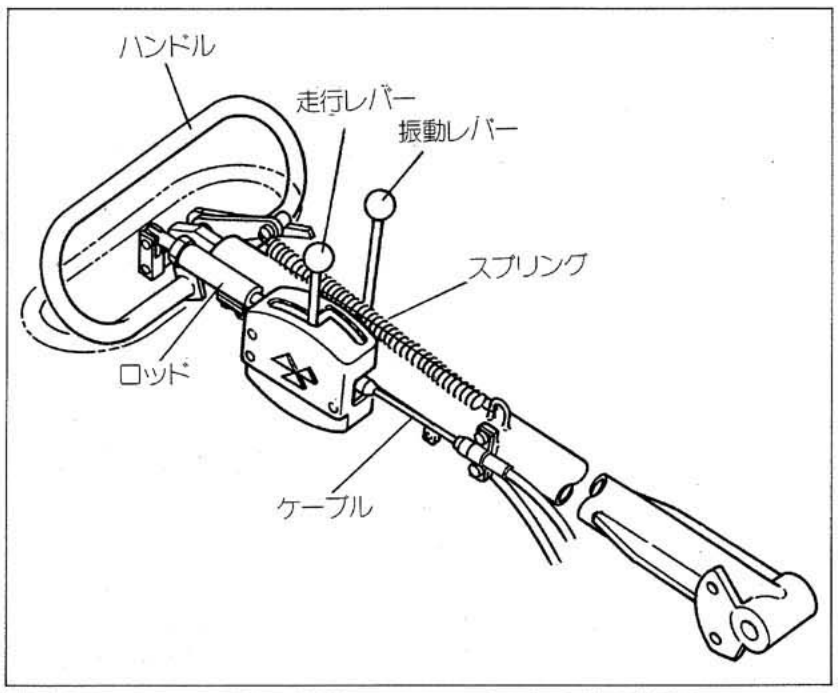
この話はパッと拡がり、三笠ニュースを読んだ方達からも引合が飛び込んで来た。只今のところ、まだそれらの全部には品物が届いていないと思うが、それぞれの現場によってスランプも骨材の大きさも異ると思う。状況に適合した使用法もあみ出されることであろうし、また、我々としてもバイブレーションの強さ、鉄板の寸法と形状等についてもいろいろと組合わせを変えて、それぞれに最も効率の良い仕上りを与えるものとしたいと考えている。

バイブレーターは振動筒は強力な振動を出しても、手許には振動を伝えてはならない。普通は振動筒の先端に余分な別のものを取付けると、振動の分布が変化して、手許に振動がくるものだが、三笠の電直バイブレーターには、モーターと振動筒の中間にスダレ状に編んだピアノ線入りの特殊な防振ゴム（特許出願中）が使われているのでこの点は安心である。

どうかこの電直法面仕上機をお使いになって気付いた点や、新しい使い方や機械についてのアイデアをお持ちの方は、是非三笠の営業員にお伝え下さるようお願いして八方尾根からの報告を終ります。　松沢報

昭和五十六年度
建設機械展示会の開催
主催　日本建設機械化協会
十月十五日(木)～十九日(月)
福岡市博多区井相田二丁目
（国道三号線沿い麦野附近）
三笠製品を展示実演致します。

海外で好評
労働災害を防ぐ
ハンドガイド式
振動ローラーの安全装置（デットマンコントロール）



MDR‖7および9型等のハンドガイド式振動ローラーは機構も簡単で、運転操作もちょっと習えば誰にでも動かすことができます。

それだけに誤った操作、或いは不用意な使い方による事故については充分に気をつける必要があると言えましょう。

作業中に背後の障害物に気付くのが遅れ、バーハンドルで腹部等を圧迫し負傷した例、または咄嗟に身をかわしたものの、ローラーを停止させる余裕がなく、バーハンドルがブロック塀にめり込んでしまった等の事故例を時たま耳にすることがあります。

そのようなことから、当然の結果として、作業者がローラーから離れたならば自動的に停止する機構が考えられるようになりました。

三笠では昭和51年の秋頃から、デットマンコントロールと言う呼び名で、欧州向のMDR‖9型に取付けられたものが最初のものでした。

この安全装置を取付けたMDR‖9型振動ローラーは、停止中にはハンドルが上を向いています。作業をするときはハンドルを握って下に押え込むようにします。締固の作業をしながら、作業者が後ろに注意を払わずにバックし過ぎて、あわてて操作を誤ると、最悪の場合はバーハンドルで腹部を圧迫する恐れがありますが、このようなときは、ハンドルから手を離すとスプリングの力でハンドルが上に跳ねあがり、前後進用の走行レバーは自動的に中立位置となり、ローラーは停止して作業者の安全を保つことができます。

安全装置の機構と作動を図に基き説明してみましょう。

上下方向に回転できるハンドルは、振動ローラーが停止しているときはスプリングに引張られて上を向いています。走行レバーはロッドに邪魔されて中立位置から前方には動かせますが、ローラーをバックさせることはできません。

作業中はハンドルを握り下の方に押し下げる（二点鎖線の位置）とロッドが引き戻されるので走行レバーは後方に動かすことができます。

ローラーをバックさせているとき、ハンドルから手を離せば走行レバーは直ちに中立位置に戻ってローラーは止まります。

（作業中はハンドルを握って下へ押えている。）

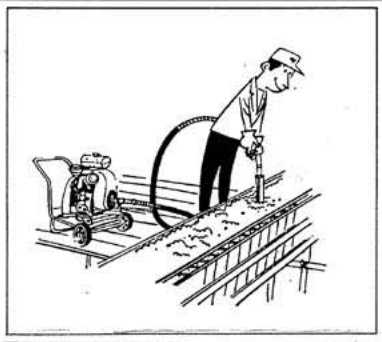
（ハンドルをはなせば自動的に停止する。）

操作がやり易く、簡単な機構で確実に働くと言う評価を得て、このデットマンコントロールはアメリカ向けのMDR‖9型等の振動ローラーには標準装備されています。

残念ながら国内では未だ使われていないのが実情です。安全管理についてはどちらも充分に意を用いておられる昨今です。

デットマンコントロールはオプションとして用意されていますので、是非お使いください。

帰って来たミカサエンジン



七月の中旬、都内のカツノ原動機さんから古いミカサエンジンがあるので三笠さんにあげましょうということで、一台の古ぼけたエンジン車が白岡の技術研究所に戻って来た。鹿角さんの話によると、このMC型ミカサエンジンは四年程前にさる建設業者からバイブレーターと共に修理を依頼されたが、MC型エンジンが製造中止となってから長い年月をたっているので、既に部品もなくなっていることでもあり、修理不能でスクラップにでもする心算でいたのだが、ガソリンを入れてやればまだ動くので、このまま潰してしまうよりは、三笠ならばきれいに復元して保存してくれるだろうと思って送り届けた、とのことであった。

突然出現したMC型エンジンを、暫くの間あかずに眺めていると、よくぞまあ健在でと声を掛けてやり度いような気持ちになる。このエンジンに関係した者にとっては、それぞれに幾多の思い出をとどめている製品である。

MC型エンジンは昭和32年に設計され、以来昭和44年まで12年間にわたって生産が続けられたもので、排気弁にはステライトバルブを使うなど、見えないところにも気を配り、ブローバイガスのシールド、マグネトーならびに気化器の防塵も施されて、三笠製品の高品質ぶりを窺わせるに足るものである。

当時は堅牢なことで評判だったが、さすがに時代と共に設計の古さを感じさせる。

ネームプレートから推察すると、このものは30年代も終りの頃に館林工場で造られたようである。当時は三笠でもエンジンを造っていたので、新入社員の工場実習ではエンジンの組立てをやったものである。

せっかく頂戴したMCエンジン、三笠製品の歴史の一駒を飾る記念として大切に保存したい。　森記

（MC型ミカサ　エンジンをのせたエンジン車、このままでも立派に動く）

職場を訪ねて〈8〉
三笠産業 新潟出張所

（三笠産業㈱新潟出張所はユタカビルの四階にある。）

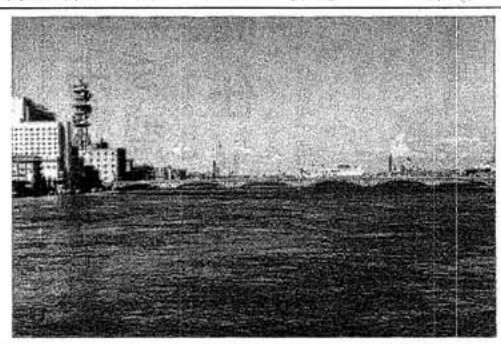
市の歴史を紐解くと、新潟市は信濃川と阿賀野川の堆積土砂で形成されたデルタ地帯に開けた町で、日本書紀によれば、いまから約一三〇〇年前に沼垂（ぬまたり）の地に蝦夷（えみし）防備の柵がつくられたと記されています。

米どころとして知られる広大な新潟平野の中にあるため、市内は大部分が平地ですが、海岸部は日本海からの風と波の影響を受けて砂丘地帯となっています。新潟市の面積は約二一〇㎢、日本海に注ぐ信濃川と阿賀野川の河口にまたがり、その周囲はおよそ一三一㎞、日本海沿岸最大の人口（約四十五万人）を擁する都市で、県庁、国の出先機関、大学、事業所の本社・支社、マスコミ関係など行政・経済の中枢管理機能が集っています。

昭和30年の大火・続いて同39年の大地震等、あいつぐ災害にもめげず、急速に復興、昔の面影を一変し、近代的なよそおいをこらし、さらに新産業都市の指定を受け、日本海側で唯一の特定重要港湾として、日ソ貿易の拡大発展とともに国際貿易港として脚光をあびています。

新潟駅前をまっすぐ行くと、信濃川にかけられている万代橋を渡る。この橋は新潟市を紹介するパンフレットの表紙によく使われていて、新潟を代表するものと言えば、信濃川と万代橋といわれるくらいに、万代橋は市民の生活に深くかかわりあっています。昭和2年、それまでかけられていた木橋の老朽化により、幅22m、長さ308mのコンクリート橋にかけかえられた。昭和39年6月の新潟大地震でもほとんど無傷のままで残り、復興に大きな役割を果たしました。万代橋は市内で最も重要な交通の要所であり、新潟の大動脈として広く市民に愛されています。その万代橋を渡ったところが、新潟市で最も賑やかな古町（ふるまち）で、古町十字路を中心とする一帯には商店が軒を連ね、西堀ローサと言う地下街まであり、ファッション関係の店が若い女性で賑わっているのはいずこも同じ風景です。

新潟市は、昔から〝水と柳と美人の町〟と呼ばれ、多くの作家、詩人


（信濃川にかかる万代橋、右側遠くに佐渡汽船のターミナルが見える。）

（新潟駅前広場）

俳人が訪れていて、市内にはこれら記念の石碑が数多くみられます。

「荒海や佐渡に横たふ天の川」有名な芭蕉の句のとおり、男性的な日本海と佐渡が島を望むすばらしい風景が新潟の海岸にはあります。また、越後連峰・弥彦・角田の山なみを望むことができ、清潔な美しさを誇る新潟美人とともに新潟を訪れる者にとって忘れ難いものとなるでしょう。

昭和大橋を渡り、西跨線橋を経て新潟バイパスに至る大通りの鳥屋野農協の近く、ユタカビルの四階に三笠産業㈱新潟出張所が開設されたのは昭和54年6月、現在のところでは各地の三笠出張所のなかでは最も新らしい。新設の出張所にふさわしく、笠原所長以下全員があふれる若さで張切っています。

（メインストリート、正面は新潟駅。）

開設当初は男子二名、女子二名の編成でしたが、一年経った昨年6月には、男子を一名増員し、現在五名のスタッフで、新潟県全域と長野の北信地区及び山形の庄内地区を担当地域としております。

貸ビルの一室なので多少手狭の感がないでもないが、雄大な越後連峰も一望できる清楚なオフィスです。製品ならびに部品在庫も一とおり揃えてあり、交通の便の良いこともあって、お出掛けになるお客様もだんだん多くなっています。

今では、東京からの転勤組の我々男子社員三名も、すっかり地元に溶け込み、〝徹底したPR、きめ細いサービス、そして代理店さんに対し少しでもお役にたてば〟をスローガンに掲げ、行動力に富む営業活動を実行する、というのが三笠産業新潟出張所全員の心意気。

57年11月に開通を予定されている上越新幹線が新潟と大宮を結び、東京が近くなると、新潟出張所の役割も当然変化し、将来に向って大きく躍進することでしょう。

東山　記

（新潟出張所内の風景、中央で電話しているのが筆者。）

シンガポール 西マレーシアを訪ねて

七月二〇日、SQ7便で成田を立ちシンガポールに向かった。途中、香港、クアラルンプールを経由し、約一〇時間の飛行である。観光シーズンの為か、日本人でほぼ満席、改めてシンガポール観光の根強さが感じられる。

マレー半島の先端にポツンと浮かんでいる緑の島シンガポールは、ちょうど淡路島と同じ位の小さな国で一都市が一国をなしており、小さいながらも「アジアの縮図」といわれるほどアジアの国々の持つ固有の要素を持っている。二三〇万の人口の中で七割以上が中国人で経済的実権を握っており、まさに台湾につぐ第三の中国といわれる由縁でもある。他にマレー人、インド人、アラブ人、ユーラシア人などが入り混じり、コスモポリタンな町をつくりあげている。

熱帯植物の緑に包まれた丘陵の多いこの国の起こりは、サンスクリット語のシンガ(ライオン)プラ(町)からきているといわれているが、実際にライオンの生息していた記録はなく、トラとまちがえてつけたというのが定説となっているらしい。

ほとんどジャングルに被われていた未開の島が今日の発展のきっかけになったのは、一八一九年イギリス東インド会社のスタンフォード・ラッフルズがわずか六〇万ドルで、ジョホールのサルタン（王）から買収したことに始まる。東西貿易の基地として海路の玄関になるためにはとラッフルズは港の建設から始めた。そして一八二三年、どこの国のどんな船が入港しても自由であるとして

（緑豊かなシンガポールの街並）

（シンガポール郊外で建設中の公営住宅）

フリー宣言をし、以来戦争中の一時期を除いて自由港として発展し、ますますその重要性を増しながら現在に至っている。

自由港であるがゆえの免税品、これもシンガポールの楽しみでもある。世界中の品物が集まっており、しかも本国より安く手に入れることができるので、ついつい財布の紐も緩んでしまう。ホテル街のあるオーチャード通りには、夜遅くまで開いている店も多く、治安もよいので散歩がてらぶらつくのも非常におもしろい所である。

街並も整然として清潔感にあふれ、他の東南アジア諸国とはちょっと違った趣きがあるのが、シンガポールの特色であろう。

また、食べ物、飲み物も、ほとんど世界中のものが集まっている。安い中華料理、海鮮料理等は日本ではなかなか食べられないものでも、私の胃袋をふんだんに満たしてくれる

観光地として有名である反面、シンガポールは工業化にも力を入れており、ジュロンの工業団地への誘致が、日本企業を含め盛んに行なわれている。工場建設、住宅建設、市街地のビルの高層化と、まさに建設ブームの真っ直中にあるシンガポールは活気のみなぎる国である。

私はシンガポールでの一週間の予定を無事終えて、隣接する西マレーシア・クアラルンプールへ飛んだ。マレーシアの首都クアラルンプールは、南北に延びるマレー半島のちょうど中間に位置し、ジャングルに囲まれた緑の美しい南国の町として知られており、近年急速に発展した近代都市である。現在人口は約八〇万であるが、一〇〇年前は錫鉱の小さな町にすぎなかったというが、近代産業に伴うゴム、錫生産の需要の波にのって大都市に発展した。

クアラルンプール近郊の錫鉱山を上空から眺めると、緑一色のジャングルの間に、青い色をした溜池のようになっており、その澄みきった色は一言で言い表わせない程の美しさである。また、市街は整然と区画された街並に高層ビルが建ち並ぶ一方で伝統的なマレー風、中国風の建物が建ち非常に印象的である。

（マレーシアで活躍するMPT—36型パワートロウエル）

（シンガポールのマーライオン公園にて筆者）

人口の一五%がマレー人、六一%が中国人、残り二四%がインド、ヨーロッパおよび他の民族で、政治的実権をマレー人、経済的にはシンガポール同様中国人が握っているという都市であるが、それがうまく一つに解けあっている点では東南アジアの模範都市ともいえる。

近年、テレンガヌ州で石油が産出されるようになり、これを後ろだてに火力発電所建設、旺盛な住宅需要をまかなう為の公営住宅建設、開発の遅れている道路の整備等、すべてがまだ未完成なこの若さあふれる国は、今後さらに発展していくことだろう。

今回二週間の出張でお世話になった現地代理店及び関係の商社の方々に紙面を借りてあつくお礼申し上げます。

輸出二課　田島記

第9回

社員海外視察旅行記

（シンガポール・バンコク・香港）

八月三十日

九時十五分、成田空港南ウイングキャセイパシフィック航空第五カウンター前に集合。今回の視察旅行は阿蒜、込山、神田の三人だけで、我々の他には添乗員もついていない。十一時十五分、三十四番ゲートよりボーイング747の機内へ、一路シンガポールに向け意気揚々と出発した。

離陸直後から台風十九号の影響だろうか、香港まで大揺れに揺れて最悪のコンディション、顔面蒼白、手には油汗、全くもってだらしがない。それでも機内食やウイスキーの水割りはしっかりと頂いた。

途中機内においてTVドラマのロケのおまけが付いて、退屈しないうちに無事定刻通り香港に着陸、二時間余りのスタンバイの後十六時二十分再びシンガポールに向け離陸、今度はさほどの揺れもなく二十時二十分、日のとっぷりと暮れたシンガポール空港に着陸、苦心してどうやら入国手続を済ませた後、我々の胸につけたジェットツアーのバッチを目印に、出迎えてくれた現地のガイドに逢うことができて内心ホッとひと安心。出迎えの車で二百四十万都市シンガポールの夜景を見乍ら宿舎のグット・ウッド・パークホテルに到着、荷物を整理した後直ちに就寝。

八月三十一日

バイキング形式の朝食を済ませ、十一時市内見学に出発、一八五九年に開園されたと云う広大な植物園、シンガポールの国花である「らん」や大きなヤシの木に目をみはる。ガイドさんの話では、約三千種類もの植物があると云う。この後、民族舞踊や展望台を見学し、港に近いレストランで昼食。

満金油の庭園やサラサの工場等を見学、免税店前で自由解散し、ホテルまで歩いて帰る。

市内見学中感じた事であるが、あらゆる所でビルの建築工事や道路の拡張工事が盛んに行なわれていた。独立後十九年と若い国だけに正に発展途上国と云った感じがした。

夜はオプショナルツアーで、シンガポールの街が一望のもとに見わたせるプリーマタワーで北京料理のフルコースを味わい、帰りに夜の中華街を見学、翌朝ホテル出発五時と早い為早々にホテルに帰りベットにもぐり込む。

（シンガポールのタイガーバームガーデン）

九月一日

バンコクはシンガポールの近代的な都市と違い庶民の生活の匂いがぷんぷんする街であった。バンコクに来て始めて歴史のある仏教寺院を見学する事が出来た。南国特有の原色のまばゆいばかりの美しさが熱帯の日差しの中に鮮やかに映えていた。

成田を離れて以来このバンコクまで日本的な食事と離されていたが、ここに来てついに我々の口に合う海鮮料理にありつけた。中国料理に飽きてきた我々には大変嬉しい昼食であった。

昼食の後ローズガーデンにて民族舞踊やタイボクシングを見学し、その後、象に乗る予定であったが南洋特有のスコールに逢い残念ながら乗れずにホテルへ帰る。

九月二日

旅行も四日目、我々も疲れが出始めたが、エメラルド寺院の美しさには疲れもふっとび、タイの歴史を膚で感じとり、気がつくと自然に合掌していた。

その後レストランで我々が普段口にする事のない熱帯の果物をいろいろと食べて見たところ、特にマンゴが美味しかった。昼食には、外国での日本料理とはどんなものか興味があり、ガイドにお願いして日本人の経営する店で、日本を離れてわずか四日目なのに久々という感じで畳の感触を味わいながら日本料理を口にした。

夜には伝統のタイ料理を食べながらチェンマイ美人の踊るタイの民族舞踊を見て、楽しい夜を過ごす事が出来た。

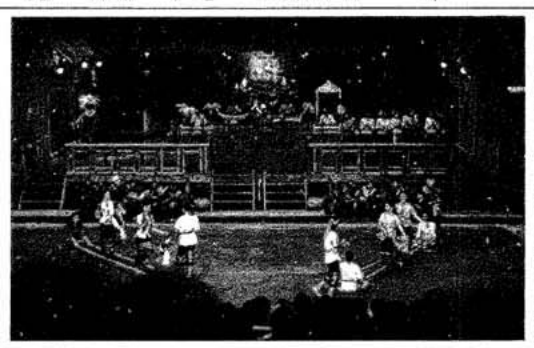
九月三日

このところ連日急がしかったが久しぶりに今日は余裕のある朝を迎えバンコク空港に向った。空港内はありとあらゆる民族が出入りしており同じアジア人と云ってもこれだけ違うものかと、変なところでアジアの大きさを感じた。

水田の多いタイを過ぎメコン川を境にジャングルの緑の多いベトナムの景色を眼下にする。

雨に迎えられて香港の啓徳空港に到着、ガイドの案内で早速街へ出て広東料理を食べた。始めて本場の麺を口にしてあまりの美味しさに感激した。

今夜の宿舎シャングリラホテルの



（タイの民族舞踊）

（右より阿蒜、神田、込山）

屋上より見た小雨煙る香港の夜景は一段と美しかった。

九月四日

この視察旅行の最終地である香港から、各自それぞれの思い出を胸に両手にお土産を抱え、一路帰国の途についた。

香港を離陸後空路四時間余り、小雨降る成田空港に二十一時三十分無事着陸。懐しの日本、今回の長いようで短かかった六日間の視察旅行は我々三人にとって生涯忘れる事の出来ない思い出になりました。

阿蒜・込山・神田記

海の家繁盛記

今年で三年目を迎えた宇佐美の海の家は、去年と違って暑い夏になったこともあって、多数の社員やその家族に利用され、それぞれに楽しい思い出を残してくれたようだ。

まず七月、開幕と同時に利用したのが業務課や技術サービス課を中心とした若い社員のグループ。金曜日は終業時間を待ちかね、ツユ空ももものともせずいざ宇佐美へ。

「山正」のおばさんの歓迎を受けて早速酒盛の始まり。

その次は「定例コンペ」と称して超党派（？）の芝刈りグループ。海へ行った筈なのに顔と腕だけ日焼けして帰ってきた。

次の団体さんは、いつの間にか恒例になった地方課主催の音楽祭、さすがは三笠の芸能プロダクション地方課が主催するだけあって盛大、砂浜にカラオケセットと鉄板焼を用意してにぎやかに行なわれた。

七月も中旬になって学校が休みになると家族連れの申し込みが多くなり、子供達の「夏休み絵日記」に悪く書かれては一生の不覚とばかりに部屋割等に気を使った。

そしてしめくくりは都内課の登場、コンピュータ室や部品課も加わって盛大に。

翌朝は伊東湾から船をチャーターして釣り大会、サバを大量に釣り上げ意気揚々として帰港。

ともあれ、今年も宇佐美は賑やかでした。「山正」の皆様、今年もご迷惑をおかけしました。　原田記

関西建設機械株式会社
創立二十周年記念フェア行なわる

兵庫県地区代理店として、三笠製品の販売レンタルに永年のお取引をお願いしております関西建設機械㈱さん（桐月正邦社長・神戸市須磨区外浜町二―九―十九）では、このたび目出度く創立二十周年を迎えられました。

これを記念して四月二十七日の記念式典と併せて二十九日までの三日間盛大に記念フェアが本社横の天下の名勝、須磨の浦に面した広大な場所で催されました。

式典では、桐月社長より「創立時より紆余曲折の過程を経て今日の隆盛をみることの出来たお礼と併せて今後は現在の過当競争に負けず鋭意専一の努力をし、益々の社業の発展を約束する。」との力強いご挨拶がありました。

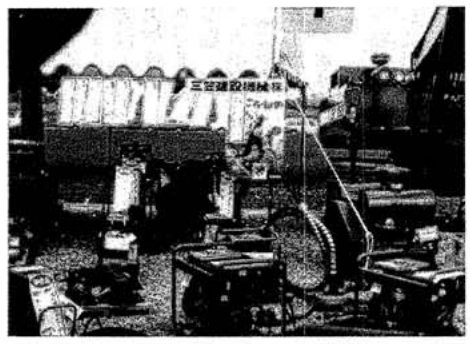
又、これを機会に五月二十一日より社名を株式会社カンキと変えられ二十一年目に向って確かな第一歩を踏み出されることとなりました。当社からは小野常務・窪田部長がお伺いし親しくお祝詞を申し上げました。

一方記念フェアでは各社メーカーの出展をみ、舞台ではいま人気絶頂の漫才師が出演し、屋台コーナー、抽選コーナーを設けて来客・ユーザーの目と耳と口を楽しませていました。

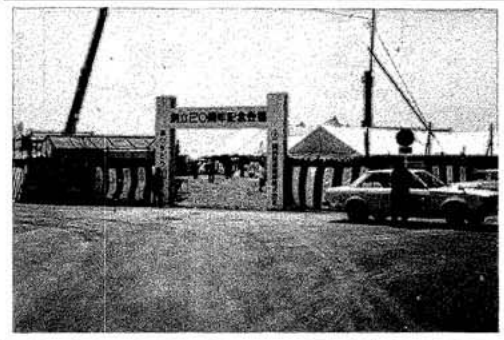
三笠展示コーナーでは高周波バイブレーターの引合・販売が目立ち、帳圧機、コンクリートカッターの販売も予想以上の成約が出来ました。これは日頃ユーザーとの密接なお取引関係の証左と心強く感じました。

今後益々の御発展を心からお祈り申し上げます。

三笠建機　青山記



沢田社長と展示会の模様



桐月社長と展示会場

株式会社沢田商店
創立十五周年記念展示会行なわる

創立以来、三笠代理店として富山県下において、三笠製品のシェア拡大に終始一貫真摯なご協力を得ております株式会社沢田商店さん（富山県高岡市五福町五番十六号、沢田将稔社長）では、この度創立十五周年を記念して、新湊市沖塚原町二一五番地にサービスセンター（敷地二〇〇六平方米、建屋三三六平方米）を建設され、そのご披露を兼ねて、七月十八日～十九日の二日間に互って盛大に展示会を催されました。

展示会には七十数社に及ぶメーカー、商社の参加を得て、ユーザーのご来場もひきも切らさず誠に実り大きな展示会となりました。

三笠製品もいま一番に力を入れている高周波バイブレーター一〇セットを始め、振動ローラーの他、プレートコンパクター、タンピングランマー等、久し振りの大口成約が出来ました。これも日頃沢田社長を始め社員の皆様方の積極的な営業活動が結実したものであり、今後はサービスセンターの稼動と相まって益々当地における確固たる地盤が確立されることは間違いのないところであり、わが三笠にとりましても心強い限りであります。二十周年に向って精々ご精進賜わらんことを念願するものであります。

三笠建機　上田記

大成功
㈱イマギイレの展示会

株式会社イマギイレさん（今給黎幸二社長）では去る九月十三、十四日の両日大宮支店に於いて盛大に展示即売会を開催された。

同社は営業本部を北区赤羽におき、営業所を大宮と川口において首都圏のユーザーを中心に「レンタルのイマギイレ」という名で大きく進出している気鋭のレンタル業者であるが、大宮支店の隣接地に広大な販売展示センターを設け、その記念として展示即売会を開かれたわけである。

同社にとっては初めての試みで、ユーザーの動員に対しては少々不安もあった様であるが、両日とも好天に恵まれ五〇〇社という予想以上の入場者を数え、販売成約の札が次々に貼られ、私達メーカーとしても不況下に於ける展示会として、こんなに成功したのも珍しい事で、この成功をイマギイレさん共々嬉んだ次第である。

当社からは高周波バイブレーターを始め、各種バイブレーター、プレート、ランマーの小型帳圧機、コンクリートカッター、フレキ式水中ポンプ等を出品したが、次々に成約にこぎつけ、感銘を受けた。

これもイマギイレさんの常日頃の営業活動が細やかで、ユーザーとの関係が非常にスムーズに連動している処にその原動力があると思う。

同販売展示センターは、新大宮バイパスの一等地に建設され、交通量の多い当地ではたいへん目立つ場所である。ここに三笠産業をはじめ、小松、デンヨー等の一流メーカーの立て看板が新設され、ひときわ目立っている。

展示会に多大な御協力を賜った今給黎社長、川上大宮支店長はじめ社員の方々に深くお礼申し上げると共に今後の一層の御発展をお祈りします。

都内課　田中記

今給黎社長と大宮支店全景

㈱片岡屋展示即売会を開催
片岡建機リース（沼津）を開設

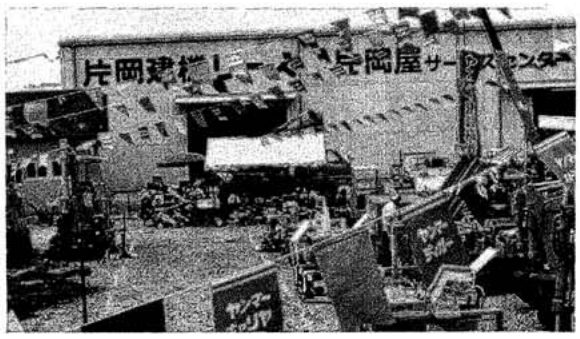
静岡県下の三笠の有力な代理店である㈱片岡屋さん（社長森生子氏、本社沼津市）では沼津営業所（所長渡辺信次郎氏）と静岡営業所（所長後藤博幸氏）それぞれに於いて盛大に展示即売会を開催された。

沼津営業所では、サービスセンターの新設と関連会社である片岡建機リース㈱沼津営業所開設を記念して七月二十四日㈮～二十六日㈰の三日間、サービスセンター敷地内で行なわれ、連日の猛暑にもかかわらず、多数のお客様が来場され、三笠の高周波バイブレーターをはじめ多数の成約をいただいた。

新たに開設された片岡建機リース㈱沼津営業所（斉藤重武氏）は国道一号線沼津バイパスに近接しており、目の前には富士山の雄姿が見られ、交通至便なところに位置している。

敷地総面積六六〇㎡、倉庫三三〇㎡、事務所八〇㎡で、倉庫には3トンのホイストクレーンが装備され、保有機械も三笠のMDR＝20N型ローラーをはじめ高周波バイブレーター各種やミニバックホー、大小の発電機、コンプレッサ等を保有しており、ユーザーのおいでを待っている静岡営業所同様所員の皆様の御健闘をお祈り申し上げます。

小笠原記



技術教室
第18回

コンクリートカッターで深切り作業をする場合に注意すべき点を教えて下さい。

川口市の阿部さんのご質問にお答えします。

コンクリートカッターの切削能力に対する重要な要素は次の四点です。

一、コンクリートカッターのエンジン出力と回転数。

二、路盤（コンクリートかアスファルトか又、鉄筋入りか。）

三、ブレードの選定。

四、オペレーターの作業能力。

エンジンの出力は、それぞれの機種により決まっています。例えばMCD＝3型カッターは15PS最大切削深さ20㎝、MCD＝5SP型は25PS最大切削深さ30㎝と、エンジンの出力が限定されていますので、作業に於ける不確定な要素は路盤、ブレード、オペレーターということになります。

まずブレードは、アスファルト用とコンクリート用に大別されます。アスファルト用ブレードはチップが硬く、コンクリート用ブレードはチップが軟らく出来ています。アスファルト用、コンクリート用ともチップが硬ければ寿命は延びますが、切れ味は劣ります。すなわち、切削速度とブレードの寿命は相反する関係にあります。

従ってブレードの選定にあたっては十分現場の状況を考慮し、作業能率が落ちても良い場合は、切れ味は悪いが寿命の長いブレードを使用し、又早く作業を終えなければならないような現場では、寿命を犠牲にしても切れ味の良い物を選ばなければなりません。

さらに鉄筋入りの橋等の切削には鉄筋用のブレードを使用します。

次に重要な事は、切削深さに伴うブレードの選定です。そこでまずアスファルト切削深さ30㎝の場合を例にとってみます。

一、前述した様に、現場状況に応じて切れ味重視か、ブレードの寿命を重視するかにより、ブレードの種類を決めます。

二、深さ30㎝切削するのに何回に分けて切るかを決めます。30㎝を一回の作業で切りますと、切削速度は遅く、ブレードの損耗が激しい上に、真っ直ぐ切ることが困難であり、一度曲がると修正が容易ではなく、常にエンストの危険にさらされる等の理由により、作業能率の低下及びブレードの消費を早めます。

普通、アスファルト30㎝切削作業ですと二～三回、各深さに分け切ります。例えば

二回切りの場合

回数	使用ブレード	切削深さ
1	18インチ	15㎝
2	30〃	30㎝

三回切りの場合

回数	使用ブレード	切削深さ
1	14インチ	10㎝
2	22〃	20〃
3	30〃	30〃

次にコンクリート切削作業の場合を説明します。コンクリートはアスファルトにくらべ切削作業が難しく、コンクリートの材令、骨材の大小、硬軟、締固め程度により、それぞれコンクリートの性質が異なります。そこで、コンクリート用ブレードの選定はアスファルトより面倒になります。

アスファルトと同じに30㎝切削深さを例にとります。

一、現場の状況に応じチップの硬軟を決定する。

二、所定の30㎝を切るのに、ブレードの寿命、作業能率の点から一回及び二回切りは絶対に避けて下さい。普通三～四回に分けて切削します。

三回切りの場合（例一）

回数	使用ブレード	切削深さ
1	14インチ	10㎝
2	22〃	20〃
3	30〃	30〃

三回切りの場合（例二）

回数	使用ブレード	切削深さ
1	12インチ	8㎝
2	18〃	15〃
3	30〃	30〃

三回切りの場合（例三）

1	18インチ	15㎝
2	26〃	25〃
3	30〃	30〃

四回切りの場合

1	12インチ	8㎝
2	18〃	15〃
3	26〃	25〃
4	30〃	30〃

以上のような具合ですが、ブレードを大切にする人は5㎝ずつ切削します。

特にコンクリート切削作業の場合、オペレーターの熟練度が切削速度に大きな影響を与えます。

以上のように切削作業には、ブレードの選定が一番重要になって来ますので、十分現場を把握し、メーカーとよく相談してブレードを決めることが大切です。

尚、ブレードの回転数ですが、特にコンクリートの場合は、回転を上げすぎますと、チップがコンクリートの上を滑り、良く切れません。そこでブレードサイズ別にMCD＝5SP型のエンジン回転数とブレードサイズの関係を記述しておきます。

ブレードサイズ（インチ）	エンジン回転数	
	アスファルト	コンクリート
18	3200	3200
22	3200	3200
26	3000	2500
30	2500	2200

但し、26″や30″のブレードを使用する場合、切削前にエンジンを二五〇〇rpm、二二〇〇rpmにセットしますと作業中に出力が出ません。ブレードの膜振動があまり起こらない程度に回転を上げて切り込んで下さい。表のエンジン回転数は、あくまでも切削作業時の回転数です。